

azbilグループのご紹介

アズビル株式会社
証券コード：6845（東証プライム）

2025年3月4日

azbil

目次

1. azbilグループ～人を中心としたオートメーション～
 - 1-1. 会社概要、業績 … p.4
 - 1-2. azbilグループの理念と沿革 … p.5
 - 1-3. azbilグループのオートメーション … p.6
 - 1-4. オートメーションにより価値を創る … p.7
 - 1-5. 人を中心としたオートメーションとは … p.8
 - 1-6. 3つのオートメーション事業 … p.9
 - 1-7. グローバル体制 … p.14
2. 長期目標・中期経営計画
 - 2-1. 長期目標・中期経営計画 … p.16
 - 2-2. 3つの成長事業領域での取組み … p.17
 - 2-3. 中期経営計画の注力ポイント … p.18
 - 2-4. 商品力強化の取組み … p.19
3. 株主の皆様への還元
 - 3-1. 基本方針 … p.24
 - 3-2. 株主還元の推移 … p.25
4. サステナビリティへの取組み
 - 4-1. azbilグループのサステナビリティ経営とSDGs目標 … p.27
 - 4-2. azbilグループのSDGs推進：環境・エネルギー … p.28
 - 4-3. 「健幸経営」の取組み … p.29
 - 4-4. コーポレートガバナンス強化の取組み … p.30
 - 4-5. 社会からの評価（2025年2月末時点） … p.31
5. 持続可能な社会へ向けて、さらなる挑戦へ（関西万博協賛のご案内） … p.33
6. その他参考情報
 - 6-1. IRに関するお問い合わせについて … p.36
 - 6-2. 株式情報 … p.37
 - 6-3. 財務・非財務ハイライト … p.39

azbilグループ ～人を中心としたオートメーション～

1-1. 会社概要、業績

● 会社情報：創業から一世紀余りにわたりオートメーション事業を展開

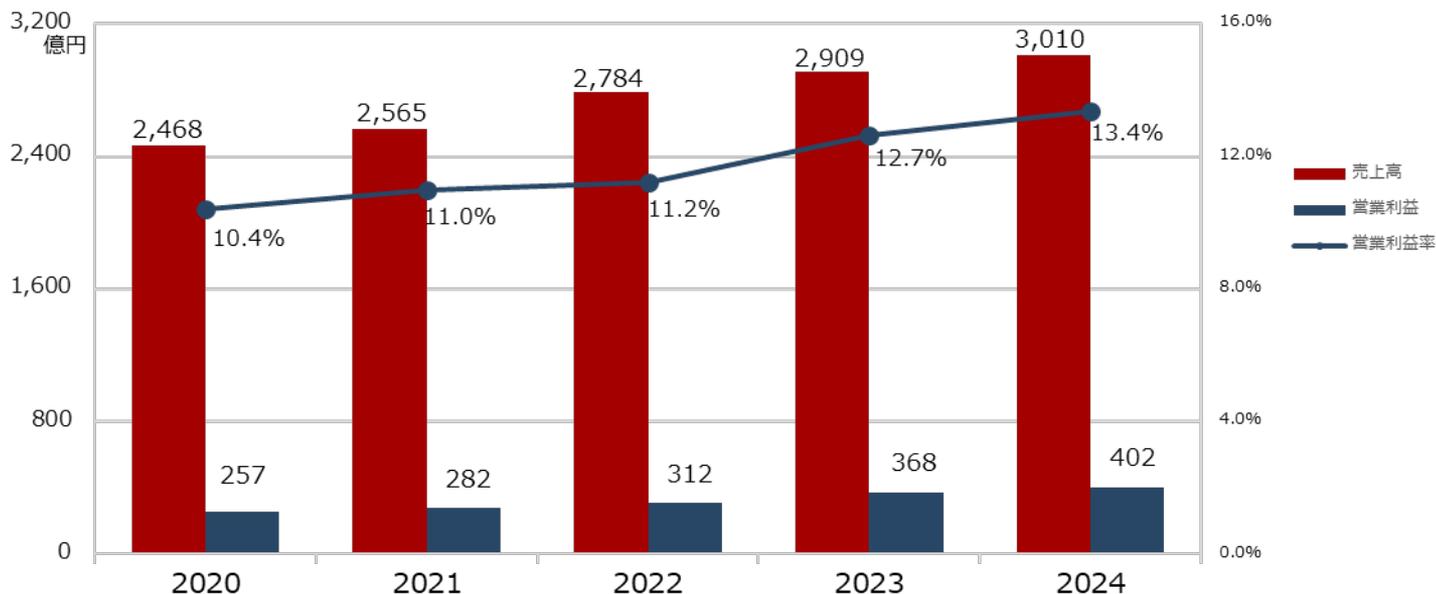
アズビル株式会社

- 本社所在地
東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル

- 創業
1906年12月1日（明治39年）
- 設立
1949年8月22日（昭和24年）

- 資本金
105億2,271万6,817円
- 従業員数
5,163人（連結：9,909人）
*2024年3月31日現在

● 業績：着実に収益を強化・成長、2024年度は4期連続の増収増益を計画



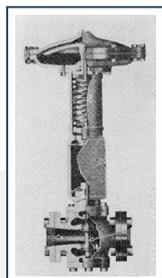
● 株主還元：2024年度、10期連続の増配を計画

1-2. azbilグループの理念と沿革

azbilグループ理念

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

1906年
創業者精神
人間の苦役
からの解放



1936年
日本初の
自動調節弁
国産化に成功

1950～1970年代
First in Control
オートメーションによる
高度経済成長への貢献



1975年
世界で初めて
矩形波励磁方式を採用した
電磁流量計を
販売開始

1970～2000年代
Savemation
高機能・高精度化、
省エネルギーへの貢献



1982年
ビル総合管理
システム
SAVIC™を
独自開発

2006年～
人を中心とした
オートメーション
持続可能な社会へ
「直列」に
繋がる貢献



2016年
オンライン異
常予兆検知シ
ステムBiG
EYES™（ビ
グアイ）を
販売開始



2020年
Dx Valve
Cloud
Serviceを
販売開始

持続可能な
社会

2030年



2025年
AI品質ナビ
ゲーションシ
ステム「Deep
Anchor™」を
販売開始

azbilグループは「計測」と「制御」の技術による自動制御・オートメーションを通じ、
一世紀余りにわたって産業・社会のサステナビリティに貢献しています

1-3. azbilグループのオートメーション

- azbilグループは、オートメーション事業を通じて、工場やプラント、オフィスや商業施設、暮らしを支えるライフラインなど、社会のあらゆる場所で、安心、快適、達成感、地球環境への貢献といった普遍的な価値を提供し続けています

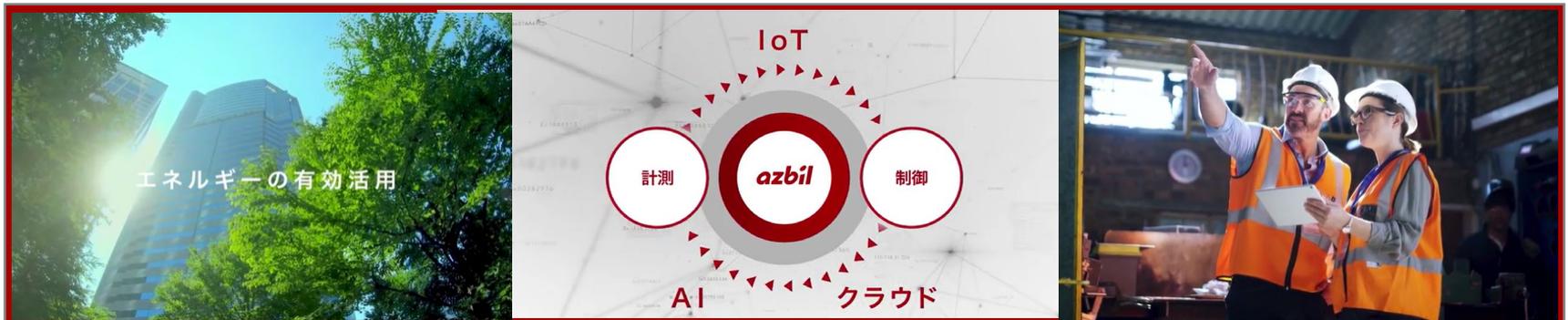
目に見えないところで人々の暮らしを支える計測と制御の技術、オートメーションの役割

- ・ 快適で効率の良い執務・生産空間
- ・ AI・ビッグデータも活用した安全な操業（AIによる異常予兆検知等）
- ・ エネルギーマネジメントによる環境負荷低減
- ・ IoT・クラウドによる設備管理の見える化や効率化
- ・ 厳密な温湿度管理（半導体、文化財）
- ・ 品質の安定（製品の均一性担保）
- ・ 正確な計量・安定的なインフラ

動画でのご紹介

azbilグループ紹介—概要編

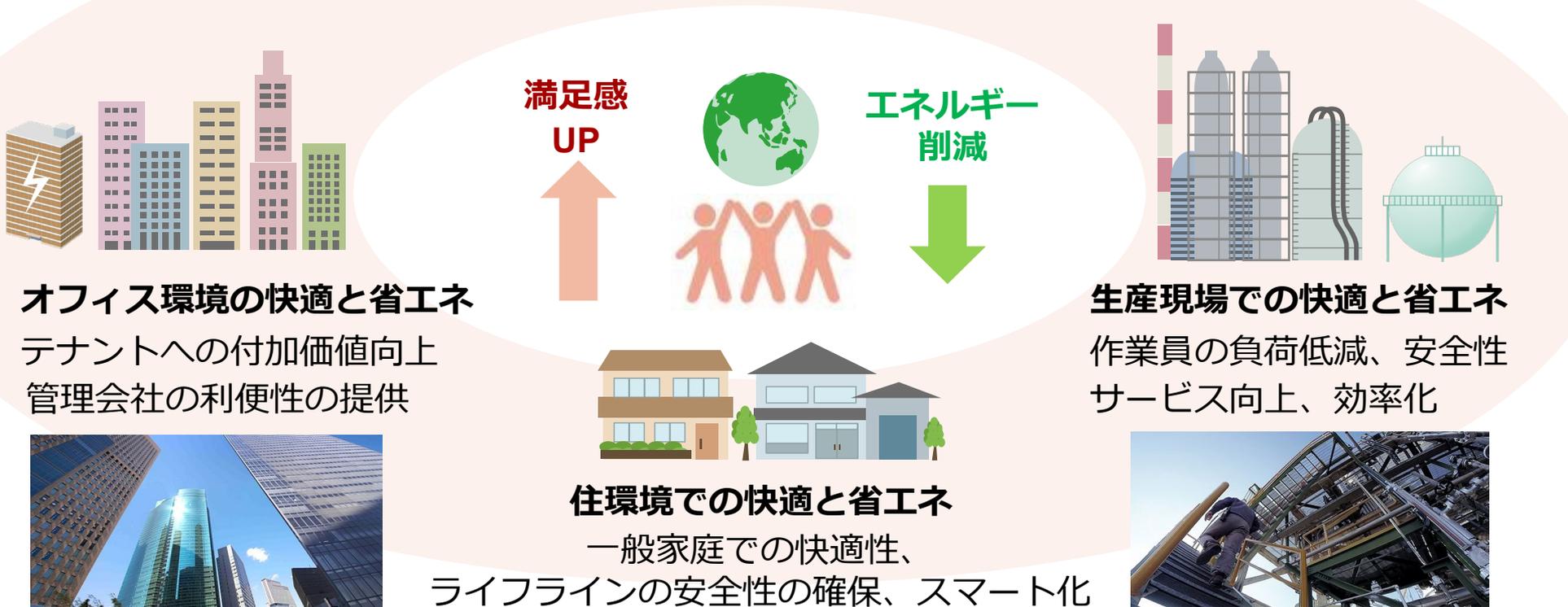
<https://www.azbil.com/jp/corporate/pr/movie/group-overview-video.html>



1-4. オートメーションにより現場で価値を創る

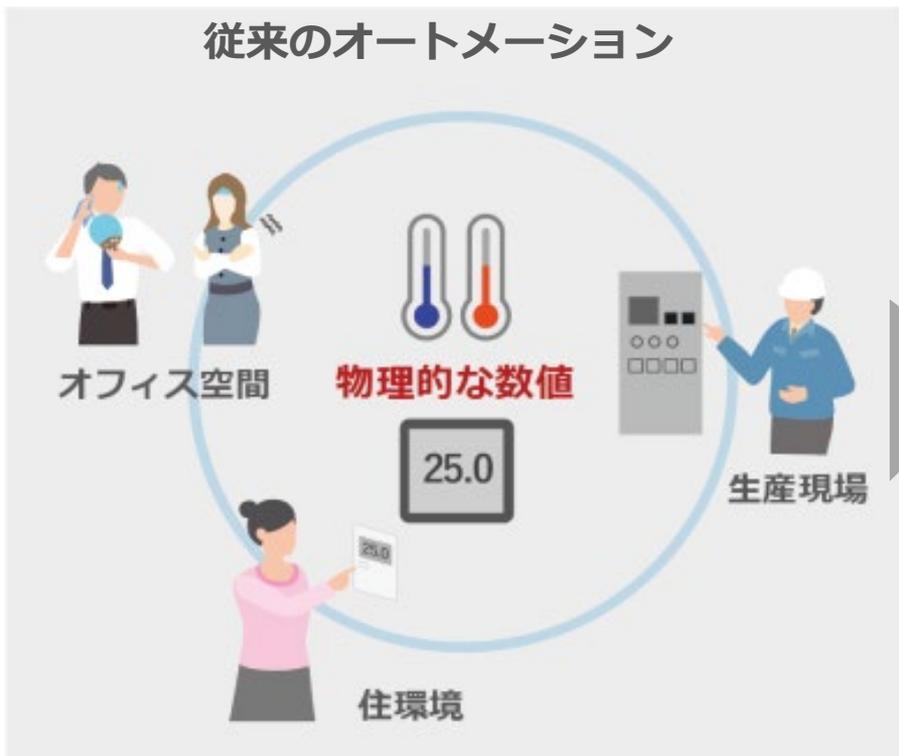
- 「計測」と「制御」の技術を基に、人と機械、人と技術の調和を図るオートメーションにより、あらゆる現場で価値を創ります

「現場で価値を創る」ことにより
「快適で豊かな社会」と「地球環境保全」を両立、
目立たなくとも社会のあらゆる場所で「縁の下の力持ち」の役割を自負しています



1-5. 「人を中心としたオートメーション」とは

- 高度な計測や制御を実現する技術のその先に、働く人の充足感を創ること・お客さまの目標を実現すること・それらが地球環境とバランスよく成り立っていることが大切であると考えています



物理的な数値を達成目標とする計測・制御



快適で豊かな社会と地球環境保全の両立を
達成目標とする計測・制御

1-6. 3つのオートメーション事業

アドバンスオートメーション事業

AA (Advanced Automation)

製造現場における課題解決に向け、装置や設備の最適運用をライフサイクルで支援する製品やソリューション、計装、エンジニアリング、保守サービスを提供。さらにIoT・AIやビッグデータを活用し、省エネルギーの実現や安全な操業をサポートします

ライフオートメーション事業

LA (Life Automation)

建物、製造現場で得た計測・制御の技術やサービスを、ガス・水道などのライフライン、住宅用全館空調などに展開。「人々のいきいきとした暮らし」に貢献します

住宅

ライフライン

浄水場

病院

工場

オフィスビル

プラント

研究所

レジャー/スポーツ施設

データセンター

ホテル

船舶

ビルディングオートメーション事業

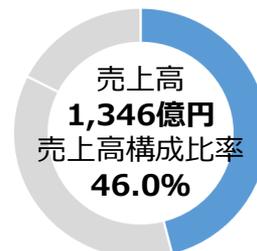
BA (Building Automation)

あらゆる建物に求められる快適性や機能性、省エネルギーを独自の環境制御技術で実現。建物のライフサイクルに応じたサービスによって、快適で効率のよい執務・生産空間の創造と環境負荷低減に貢献するとともに、健康で生産性の高い働き方をサポートします

1-6. 3つのオートメーション事業

ビルディングオートメーション (BA) 事業

- オフィスビルや工場、データセンターなど様々な大規模建物に、空調制御に必要な製品・システムの開発・生産・販売からエンジニアリング、施工、保守サービスまでを一貫した体制で提供しています
- 建物のライフサイクルにおけるトータルソリューションの提供を強みとして、長期にわたり、お客様の建物のエネルギー管理、安定運用と資産価値向上を支援します



データ集積



ビルディングオートメーションとIoTなどの新しい技術を融合し、ライフサイクルに応じたサービスを提供

- ・ エネルギーマネジメント
- ・ 広域建物群の管理や保全
- ・ 建物の最適運用の提案
- ・ メンテナンス
- ・ 建物リニューアルの提案

現場の知見を建物のライフサイクルに応じた新たな製品・サービスの開発へ

建物の中央管理システムや自動制御機器、建物の管理を支援するアプリケーションの開発・生産

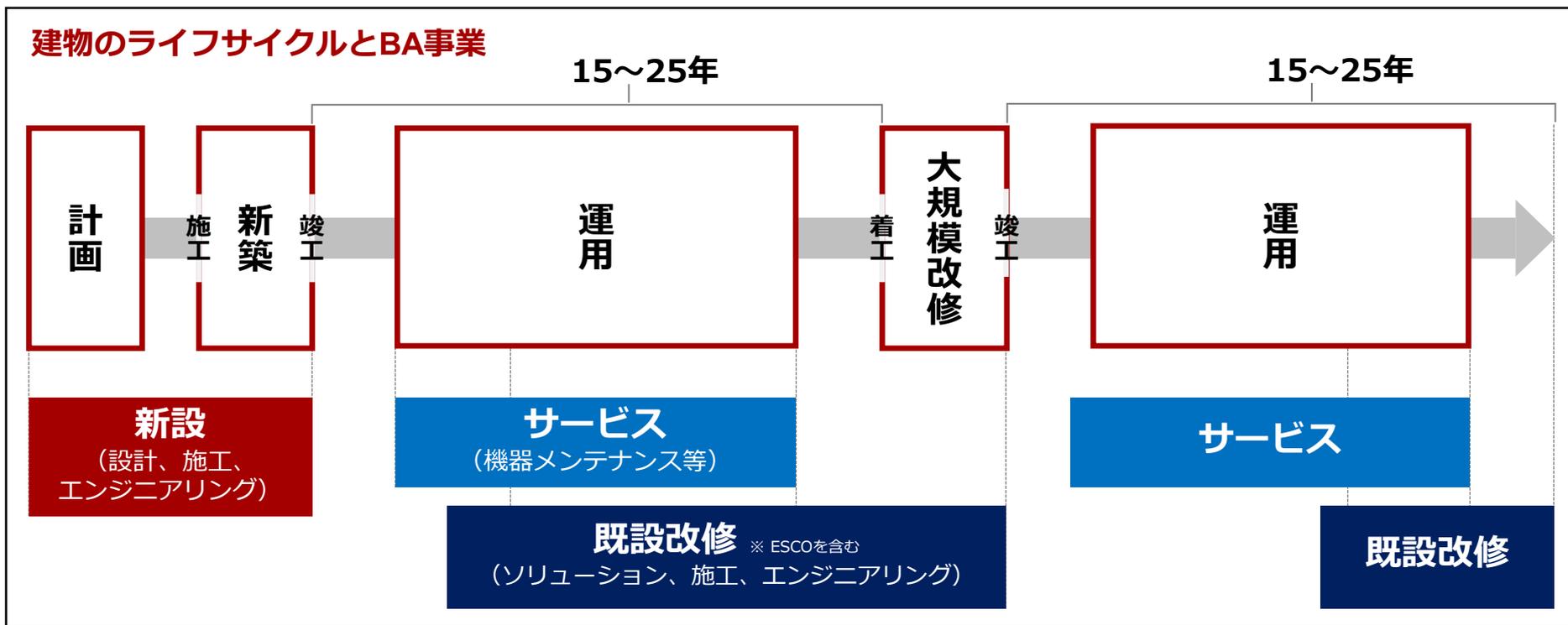


1-6. 3つのオートメーション事業

ビルディングオートメーション事業の事業サイクル

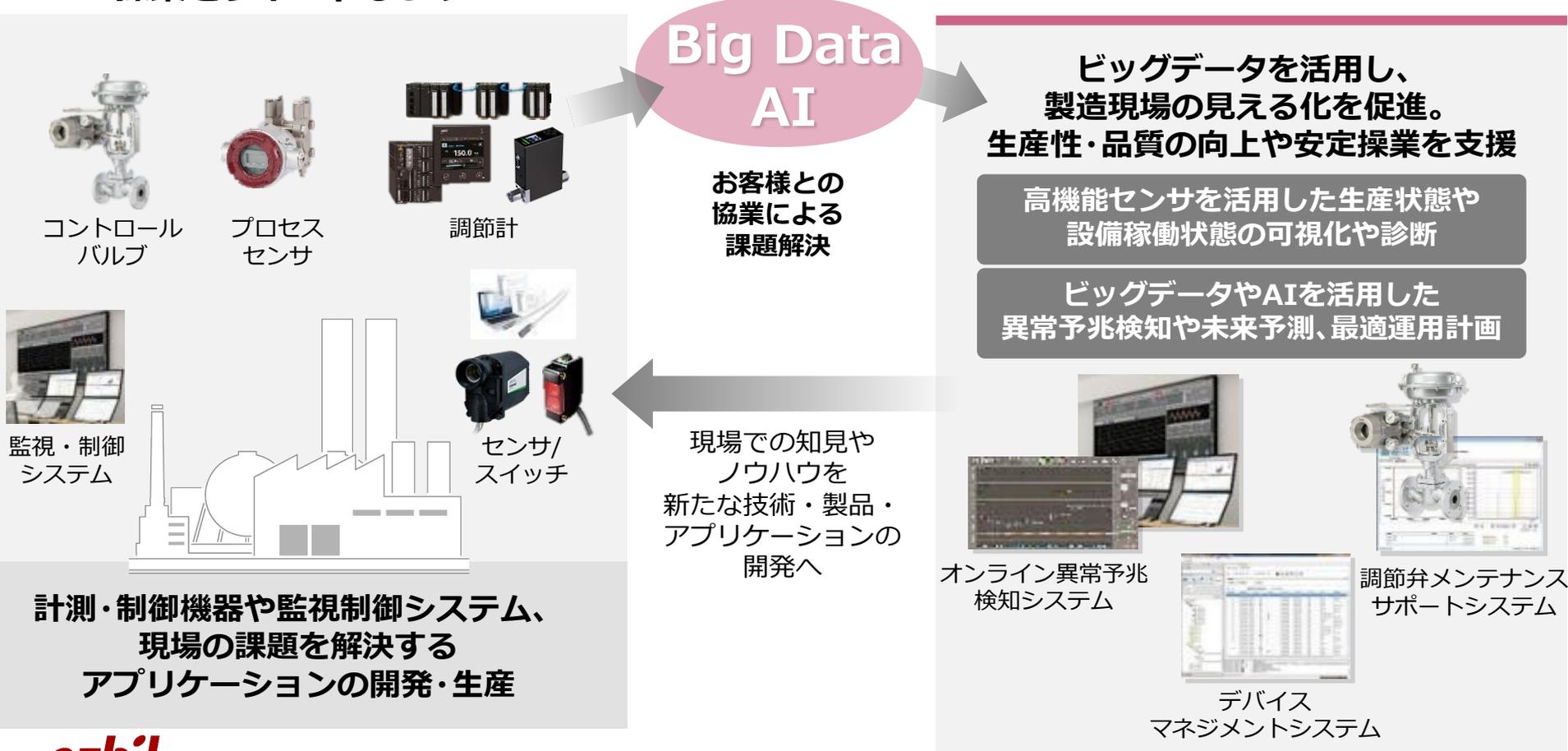
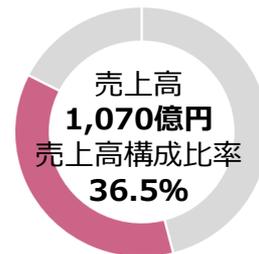
顧客資産における「空間の質・生産性の向上」と「資源・エネルギーの最小化」の両立を長期にわたり実現

- 豊富な納入実績と人材を有するメンテナンスサービス体制により顧客資産のライフサイクルを通じて最適な状態を維持することに貢献
- クラウドやデジタル技術などDXを推進し、さらに高付加価値なサービスを提供



1-6. 3つのオートメーション事業 アドバンスオートメーション (AA) 事業

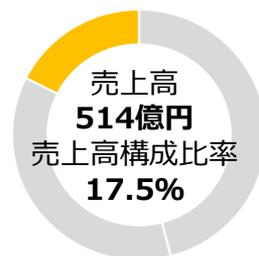
- 製造現場における課題解決に向け、装置や設備の高度化やライフサイクルでの最適運用を支援する製品やソリューション、計装・エンジニアリング、保守サービスを提供しています
- IoT・ビッグデータ・AIといった最先端の技術を活用し、より安全・安定した操業をサポートします



1-6. 3つのオートメーション事業

ライフオートメーション (LA) 事業

- ガス・水道のライフラインや家庭の空調システムなど、生活空間の質の向上など、より安全・安心な生活と快適性や省エネルギーの向上に貢献します
- スマートメーターやクラウドを活用したデータソリューションの提供によりスマート社会の実現に貢献します



ライフライン分野 (ガス・水道メーター)

都市ガス・LPガスメーター、水道メーターを提供するほか、警報装置や自動遮断弁といった安全保安機器、レギュレータを提供



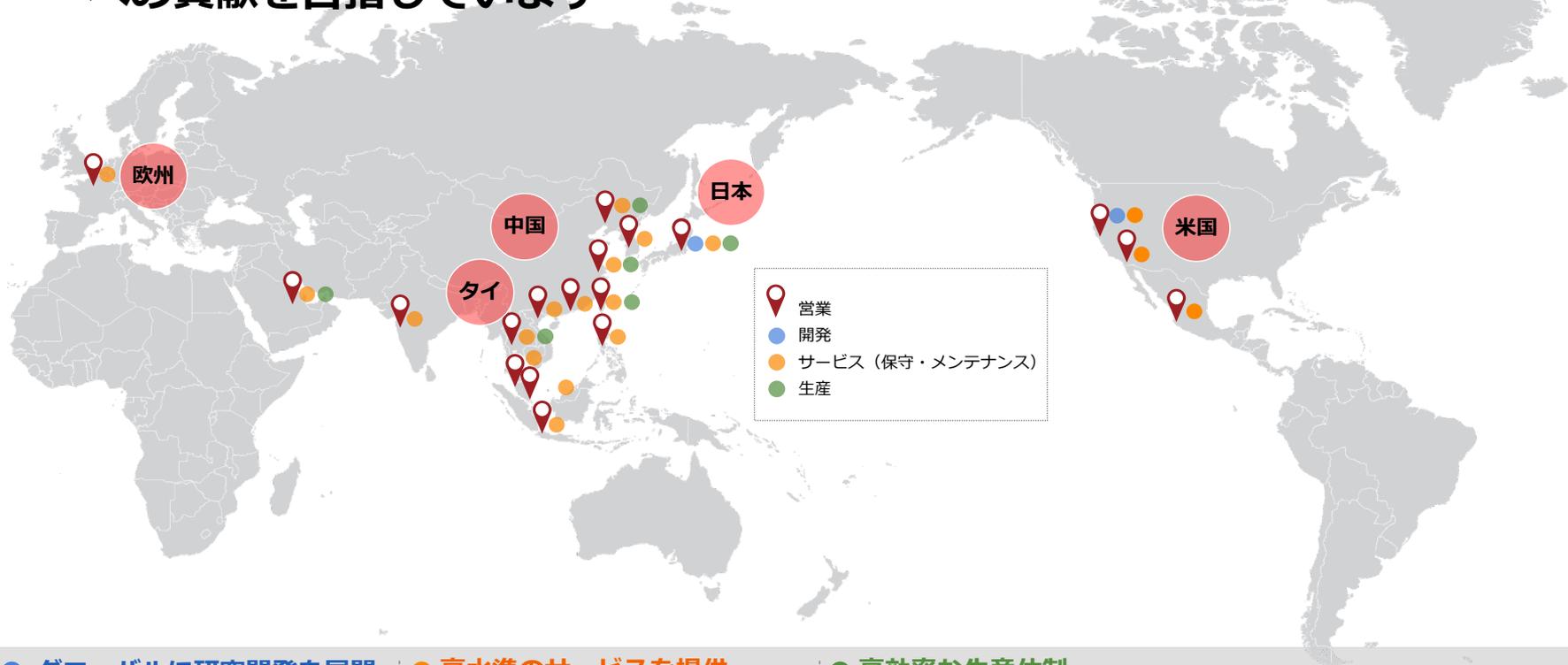
住宅用全館空調システム分野

空調機1台で冷房、暖房、換気、空気清浄、除湿ができ、家全体を快適にする全館空調システムを提供



1-7. グローバル体制

- グローバルなバリューチェーンをもとに、顧客満足の上昇と社会課題解決への貢献を目指しています



● グローバルに研究開発を展開



アズビル株式会社
(藤沢テクノセンター)

● 高水準のサービスを提供



アズビルタイランド株式会社
(Solution and Technology Center)

● 高効率な生産体制



アズビル株式会社
(湘南工場)



アズビルプロダクション
タイランド株式会社



アズビル機器
(大連) 有限公司

長期目標・中期経営計画



2-1. 長期目標・中期経営計画

オートメーション技術を共通基盤とした3つの成長事業領域での成長を核に、BA（ビルディングオートメーション）、AA（アドバンスオートメーション）、LA（ライフオートメーション）各事業で、グローバルでの成長を実現します

- 中期経営計画は着実に進捗。事業収益力の強化が進み、戦略投資の強化を進めながら、最終年度である2024年度連結業績計画では、2021年度に策定した中期経営計画業績目標を上回る業績の達成を見込む

	2021~2024年度 中期経営計画期間					2024年度	
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	中期経営計画	連結業績計画	
売上高	2,468億円	2,565億円	2,784億円	2,909億円	3,000億円	3,010億円	
[海外]	[448億円]	[521億円]	[626億円]	[673億円]	[660億円]	[660億円]	
営業利益	257億円	282億円	312億円	368億円	360億円	402億円	
営業利益率	10.4%	11.0%	11.2%	12.7%	12%	13.4%	
ROE	10.4%	10.4%	11.2%	14.2%	12%程度	16.7%	
					(2021/5/14公表)	(2024/11/8公表)	

長期目標



2030年
SDGs目標



持続可能な社会へ
「直列」に繋がる貢献
企業価値の持続的な向上

長期目標（2030年度）
(2021/5/14公表)

4,000億円

[1,000億円]

600億円

15%程度

13.5%程度

2-2. 3つの成長事業領域での取り組み

3つの成長事業領域

azbilグループが強みを持つ3つの成長領域の事業で特徴あるソリューションを提供

新オート
メーション事業

環境・
エネルギー事業

長期にわたって最適な状態を維持し、
持続可能な社会に貢献

ライフサイクル型事業

新オートメーション事業

新しい需要に応えるソリューションの提供で売上拡大

BA：感染症対策や新しい働き方に適応した新たなビル環境ニーズ（ウェルネス）

AA：より高い生産性と安全で安定した設備運用

LA：各種メーターのIoT対応（スマートメーター）とビッグデータの集積

環境・エネルギー事業

既存商品に加え、新しい価値を提供し売上拡大

BA：カーボンニュートラルとウェルネスを両立する事業機会の拡大

AA：生産設備の省エネルギー・温暖化ガス排出抑制の需要増加

LA：実測されたビッグデータを活用した企業の脱炭素化支援等の要望現出

ライフサイクル型事業

顧客資産（工場・オフィスビル・ライフライン）の品質・性能・生産性を長期にわたりサポートする持続的ビジネス高付加価値化とDXにより収益性を拡大

2-3. 中期経営計画の注力ポイント

環境の構造的な変化に起因するお客様の事業モデル・需要の変化を捉え、3つの成長事業領域の拡大、成長を実現するため、商品力、技術開発・設備投資、人的資本への投資、それぞれに注力し、強化。成長施策と併せて、資本コストを意識した経営を進め、事業ポートフォリオを再構築

商品力強化 (製品・サービス)

【商品力強化・商品ポートフォリオ拡大】

- 自律化、ウェルネス
- 省エネ+再生可能エネルギー分野（ESP）
- AIとビッグデータ、クラウド技術等の組合せ

- AI、クラウドサービス等の投入
- 他社との事業提携の推進

技術開発・ 設備投資強化

【技術開発力強化分野】

- MEMS・センシングデバイス技術
- アクチュエータ関連
- AI、クラウド

- 研究開発費 507億円
(2021~23年度実績、2024年度計画)
- 研究開発拠点機能強化設備投資 建設費70億円
(2021~22年度実績)

人的資本への 投資強化

～ サステナビリティ経営の推進～

【事業戦略と整合する人材の確保・育成、働く環境の整備・制度改革】

- エンジニア、グローバル人材
- 創造性を発揮するワークスペース、生成AI活用
- インセンティブプランの改定

- 社内生成AIの導入・活用
- 信託型従業員持株インセンティブ・プラン導入等

事業ポート フォリオの再構築

【資本コストを意識した経営】

- ROIC経営の試行
azbilグループは、資本コストを意識した経営として税引後修正営業利益試算に基づく投下資本利益率（ROIC）を導入、整備を進行

- アズビルテルスター有限会社を譲渡
(2024年10月31日 中央ヨーロッパ時間)

2-4. 商品力強化（製品・サービス）の取組み

新オートメーション～AI、クラウド技術の活用

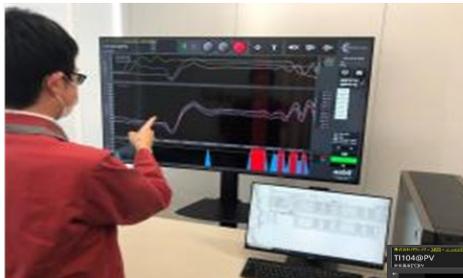
オンライン異常予兆検知システム

- 工場／建物のプロセス、設備、製品品質、排水や大気などの環境変数を常時オンラインでモニタリング、いつもと異なる動きを予兆の段階で検知するAIを応用したシステム

- 様々な市場で **7,000** を超えるAI監視モデルが稼働中

発電プラント、石油精製プラント、石油化学プラント、機能性化学プラント、医薬品工場、食品工場、電気電子製造工場、排水処理施設、焼却炉、建物（熱源機・空調設備等）

- お客さまとの共同開発も進展



医薬品製造機械の故障予兆検知

ビル向けクラウドサービス

- ビルオーナーから、ビル管理者、建物居住者（テナント）まで幅広くサービスを提供
- クラウドBAS機能の高度化から、ウェルネス、BAS機能のテナントへの開放等で顧客・事業領域を拡大 ※BAS : Building Automation System

Energy Management (エネルギー管理機能)

エネルギーの見える化・分析
建物の外からもモニタリング、
少数人員で多くの建物を集中管理

Building Management (設備管理機能)

設備管理業務の効率化
ビル管理の方法を統一。管理情報
を共有して、業務効率を向上

Tenant Service (居住者空調操作機能)

居住者の利便性
居住者一人ひとりの要求に応え、
オフィスの環境向上に貢献



2-4. 商品力強化（製品・サービス）の取組み

環境・エネルギー事業～脱炭素に向けて他社協業も含めた事業領域の拡大～

GX（グリーントランスフォーメーション）を推進中

2022年2月：経済産業省が発表した「GXリーグ基本構想」に賛同し、2050年カーボンニュートラル実現と社会変革を見据えたGX推進に、官・学とも連携



気候変動等の社会課題への対応には、幅広い領域で様々な問題が相互に関連するため、自社での取組みに加えて他社協業・連携によるソリューションを提供します

【協業による事業領域拡大 商品例】

次世代エネルギー
マネジメント事業
DX-EGA™

オフィスビル等の大規模
施設のCO₂排出量削減
GXソリューション

エネルギーデータ
(電力、ガス、水道)
を軸とした価値提供

空調制御に
おける協業

azbilグループ
[既存領域 商品例]

オンライン異常予兆検知システムBiG EYES

クラウド型バルブ解析診断サービス Dx Valve Cloud Service

Smart Metering as a Service (SMaaS)

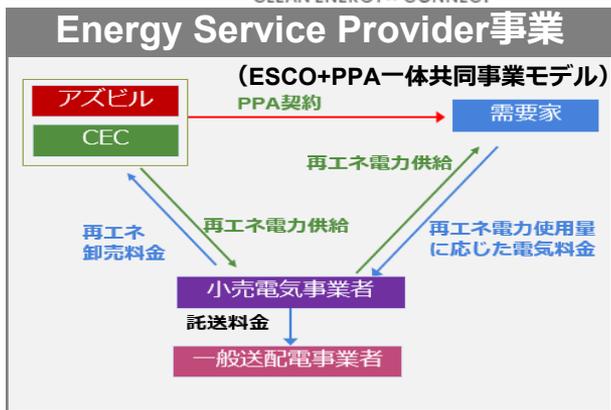
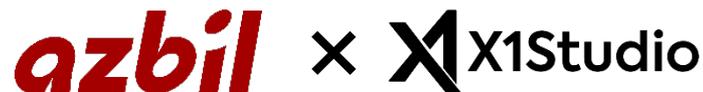
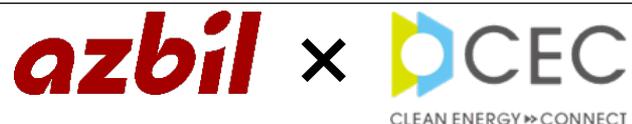
顧客提供価値を実現する
商品の拡張

GX推進

事業提携等により、商品を採用いただく顧客基盤を拡大

GX（グリーントランスフォーメーション）

2-4. 商品力強化（製品・サービス）の取組み 他社との事業提携、出資による事業開発



年	内容	提携・出資先
2021	次世代エネルギーマネジメント事業 DX-EGA	東光高岳グループ（電カメーター）
2022	オフィスビル等の大規模施設のCO ₂ 排出量削減GXソリューション	NTTグループ4社、ダイキン工業
2022	脱炭素に取り組む事業者とのパートナーシップ等の創出	脱炭素化支援機構
2022	アズビルの“省エネルギーソリューション”とCECの“グリーン電力ソリューション”の組み合わせによる事業モデル開発	クリーンエナジーコネクト（CEC）
2023	新たな事業領域の市場情報や革新的な技術情報の獲得、投資先企業との関係構築、事業探索	JAFCOグループ（ジャフコSV7ファンド）
2023	外資系データセンター向け事業の拡大を目指し、アズビルとX1Studioが業務提携	X1Studio株式会社
2023	再生可能エネルギー領域でのソリューション拡大 －アズビルとフォレストエナジーが資本業務提携	フォレストエナジー株式会社

2-4. 商品力強化（製品・サービス）の取組み

ライフサイクル型事業～DXを通じて顧客資産価値の維持・向上に貢献～

クラウド型バルブ解析診断サービス

「Dx Valve Cloud Service」： クラウド技術とメンテナンスノウハウの融合

- バルブの稼働データをクラウドに自動送信し解析
- ユーザーは「必要なときに」「必要なカタチで」「必要なシーンで」、バルブの“健康診断”結果を可視化
- 解析や診断作業に伴う特別な技術やノウハウを必要とせず、状態基準保全を考慮した最適なメンテナンス計画を容易に立案することが可能になり、生産設備の安定化・保安力強化を実現



▲ DX Valve Cloud Service診断結果画面

SMaaS事業 Smart Metering as a Service

「はかる」というメーター機能に加えて 新しい付加価値を提供

- 既存データの収集手段も活用し、多様な事業者データ、サービスとの組合せによる協業事業コンセプト
- 世帯ごとのエネルギーデータ分析、企業のESG推進やカーボンプライシングへの対応等、エネルギー・環境領域での付加価値提供、さらに、金融、流通・ヘルスケア等に向けたサービスの提供を予定

スマート化の 取組み

SMaaSTM

電力、ガス、水道+αのデータを重ね合わせた新たな価値を社会へ提供

新たな
価値・サービスを
創出

データ
連携・分析・加工

広域・統合
データPF

データ収集
(MDMS[®])

計量



広域・統合データPF上で様々な
データやツールが連携・運動



検針+粒度の高いデータ収集による
私たちの生活や経済活動の把握



株主の皆様への還元



3-1. 基本方針

基本方針「**株主還元**の充実、**成長**に向けた投資、**健全な財務基盤**の3つのバランスに配慮しながら、規律ある資本政策を展開し、azbilの企業価値の維持・向上を図る」に基づき、研究開発費・設備投資やDX、人的資本への投資等、成長への投資を実施しつつ、増配、自己株式の取得・消却を実施

2024年度株主還元実施内容

配当

2024年度年間配当計画（分割前換算）は、**1株当たり年間88円**（前年度比+12円）**DOE 5%台**

自己株式 取得・消却

規律ある資本政策、資本効率の観点から、**150億円**（2,400万株）の自己株式を取得を実施中

株式分割

流動性を高め、投資しやすい環境を整えるため**株式分割（分割比率 1：4）を実施**
（2024年10月1日）

投資

商品力強化に向けて設備、研究開発等への投資を拡大
設備投資 102億円、研究開発140億円を計画

健全な 財務基盤

格付け A +（格付け投資情報センターR&I）
自己資本比率70.6%（2023年度末時点）

基本方針



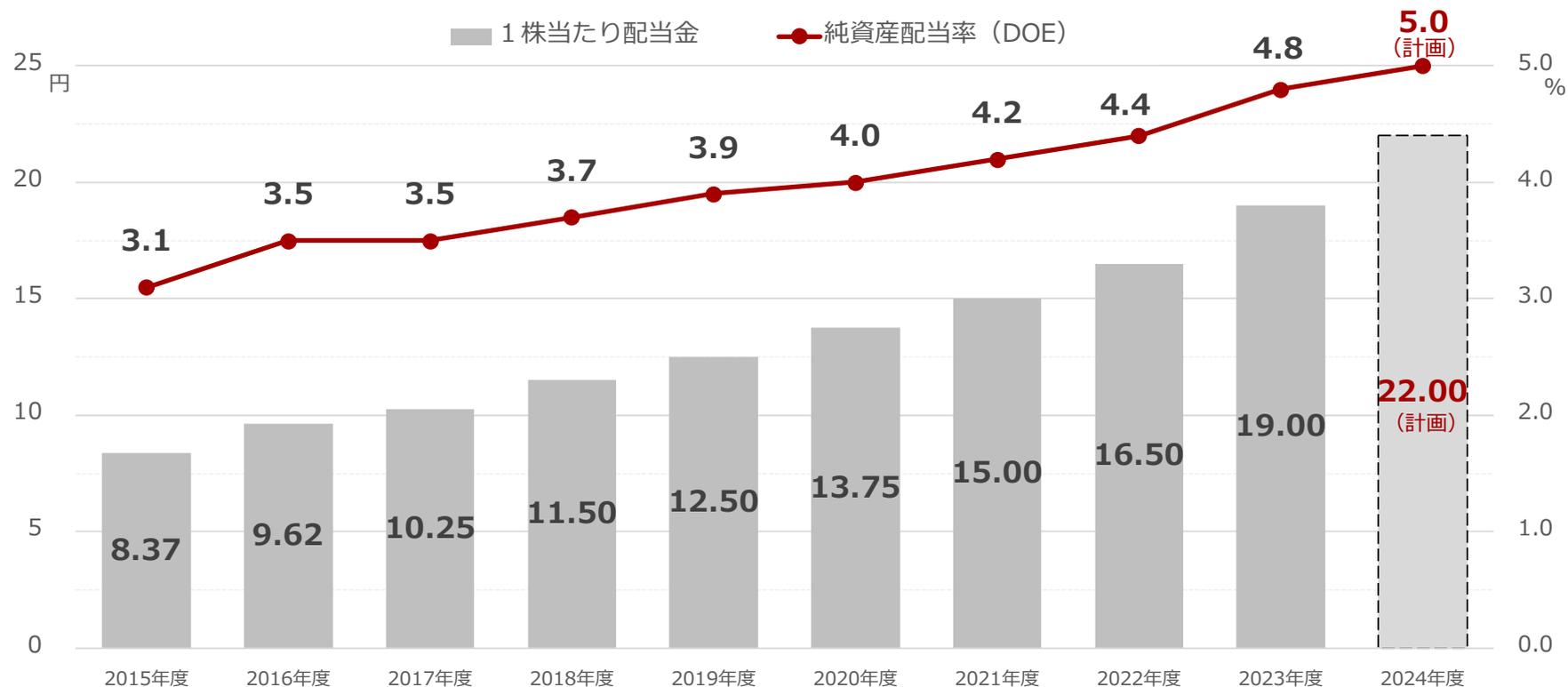
株主還元の充実、成長に向けた投資、健全な財務基盤の3つのバランスに配慮しながら、規律ある資本政策を展開し、azbilの企業価値の維持・向上を図る

- 株主の皆様への利益還元を経営の重要課題として位置付ける
- 株主還元は配当を中心に、自己株式取得も機動的に組み入れる
- 株主還元の水準については、連結業績、自己資本当期純利益率（ROE）・純資産配当率（DOE）の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して決定する
- 配当についてはその水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する

3-2. 株主還元の推移

● 2024年度、10期連続の増配を計画、純資産配当率（DOE）※は5.0%を見込む

※ Dividend on equity ratio : 年間配当総額 ÷ 自己資本 × 100
 (東証プライム上場企業2023年度決算短集計値 : 2.94)



自己株式取得総額 (億円)	19		29	49	99		99	99	99	150 (計画)
自己株式取得総数 (万株)	480		571	748	1,487		901	1,068	877	2,400 (計画)

※ 1株当たりの配当金、自己株式取得総数は、
 2024年10月及び2018年10月における株式分割の影響を加味し遡及して修正

サステナビリティへの取組み



4-1. azbilグループのサステナビリティ経営とSDGs 目標

「サステナビリティ経営」：創業時の精神である「人間の苦役からの解放」の考え方を、人間の幸福のために社会に貢献する価値観として受け継ぎ、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献し、azbilグループ全体で**SDGs目標達成を通じて、持続可能な社会へ「直列」に貢献**します

- お客さまの持続可能な生産現場・職場環境、さらなる安心・快適・達成感の実現に向け、生産空間・居住空間（ビル建物）・生活空間における「計測の高度化」「データ化」「自律化」などにより、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出

- ※2030年に延べ
- ・8,000事業所で事業環境変化に強い状態を実現
 - ・600万人にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供

- お客さまの現場におけるCO₂削減効果
 - ・340万トンCO₂/年
- 温室効果ガス(GHG)排出削減
 - ・サプライチェーン全体**33%削減**、事業活動**55%削減**

- 環境課題への貢献
 - ・すべての新製品をazbilグループ独自の**サステナブルな設計**とする
 - ・すべての新製品を**100%リサイクル可能な設計**とする
 - ・サステナブルなサービスを支える**プロフェッショナルスキルを持つ人財を、2021年度比で3倍の延べ1,800名へ**

- 多様な人材の活躍（女性活躍）
 - ・2024年度 2017年比で**女性活躍ポイントを2倍**
 - ・2030年度 働くことへの満足度**65%以上**
- ステークホルダーとともに学ぶ機会
 - ・2024年度 2012年比で**研鑽機会ポイントを2倍**
 - ・2030年度 **成長実感比率 65%以上**



- お取引先さまとともにSDGsを共通目的として連携し、**サプライチェーンにおけるCSRの価値共有を実現**
- 地域に根差した社会貢献活動をすべての事業所で実施し、社員一人ひとりが参加

4-2. azbilグループのSDGs推進：環境・エネルギー

お客さまの現場におけるCO₂削減

計測と制御の技術で、2030年度 お客さまの現場で340万トンのCO₂削減効果を上げ
ることを計画

約170倍の
環境負荷を低減

2023年度 実績
お客さまの現場における
CO₂削減効果

2023年度 実績

azbilグループの
事業活動に伴う
CO₂排出量

1.6 万トンCO₂

オートメーション
で



261万トンCO₂

エネルギー
マネジメントで



18万トン

メンテナンス
サービスで



5万トンCO₂

合計 284 万トンCO₂

2030年度目標
お客さまの現場に
おけるCO₂削減効果

合計 340 万トンCO₂

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

CO₂排出量（スコープ1+2）
（アズビル株式会社、
国内連結子会社および
海外主要生産拠点）

オートメーション機器・システムの提供から、エネ
ルギーマネジメント等のソリューション提供、納品
後のメンテナンス・サービスまでを通して、社会の
環境負荷低減に「直列」に貢献する実績

4-3. 「健幸経営」の取組み

- azbilグループ独自の「健幸経営」のもと働き方改革とダイバーシティ推進を両輪に、社員が健康で生き活きと能力を発揮できるよう総合的に取り組んでいます

取組みの目標（azbilグループSDGs目標）

1. azbilグループで働くことに満足している社員の比率
2030年度目標：65%以上（2023年度実績：57%）
2. 成長を実感する社員の比率
2030年度目標：65%以上（2023年度実績：59%）

azbilグループ健幸宣言

社員ひとりひとりの健康が企業活動の重要な基盤であるにとらえ、会社で働くすべての人々が安心・安全で、快適に、生き活きと、自分らしく健やかに働き、それぞれが持つ多様な能力を発揮し、公私ともに充実した人生を送ることが、生産性や業績の向上、イノベーション、社会への貢献につながると考えています。

健幸な「働き場と人」を創るために、会社とそこで働く社員が協働し、快適で働きやすい職場環境づくり心身の健康づくりに積極的に取り組むことを宣言します。

2024年は、7年連続で経済産業省の「健康経営優良法人」の認定を受けており、上位500法人のみが認定される「ホワイト500」にも3年連続で認定



4-4. コーポレートガバナンス強化の取組み

● 指名委員会等設置会社

社外取締役が過半数を占める取締役構成。監督機能と執行機能の明確な分離を図り、意思決定の迅速さを高め、経営の監督機能の更なる強化を実現しています

● 透明性の高い役員報酬制度

役員報酬ポリシー、基本方針を定め、グループ理念の実現に向け、短期的な業績のみならず、中長期的な業績目標の達成および企業価値向上を動機づける報酬内容としています

コーポレート・ガバナンス体制（2024年6月25日定時株主総会終結後）

監督

議長



取締役会（12名）

指名委員会

監査

監査委員会

報酬委員会

社内：4名 独立社外：8名

- 独立社外取締役比率：67%（過半数）
- 社内取締役中2名が非執行
- 議長は非執行社内取締役

※ 各法定委員会の委員長は社外取締役

執行



執行役



執行役員

業務執行の
重要事項決定



社内役員



社外役員



女性役員

4-5. 社会からの評価（2025年2月末時点）

SDGs関連 — メディアによる調査

- 日経SDGs経営調査2024 ☆4獲得

ESG関連 — インデックスへの組入れ状況、各種評価・取組み

- 年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が選定した6つのインデックス
 - FTSE Blossom Japan Index
 - MSCI日本株女性活躍指数（WIN）
 - S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
 - FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
 - MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
 - Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
- CDP Climate Change Bリスト評価、**CDP Water A-**（マイナス）評価（2024年）
サプライヤー・エンゲージメント・リーダー（2023年）
- 女性活躍推進法に基づく**優良企業認定マーク「えるぼし」最高位認定**
- 「**プラチナくるみん認定**」取得
- 「**もにす認定**」取得
- **健康経営優良法人2023認定（大企業部門（ホワイト500）認定）**
- ESGファイナンス・アワード・ジャパン「環境サステナブル企業」選定（2023年～）
- 「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」賛同表明
- 「自然関連財務情報開示タスクフォース」（TNFD）アダプター登録（2024年8月）
- 気候変動イニシアチブ、日本気候リーダーズ・パートナーシップ賛同
- 「国連グローバル・コンパクト」署名

その他 — インデックスへの組入れ状況

- FTSE 4Good Japan Index
- JPX日経インデックス400

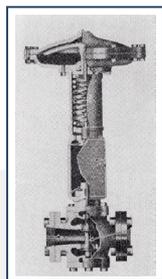
持続可能な社会へ向けて、
さらなる挑戦へ

5-1. 持続可能な社会へ向けて、さらなる挑戦へ 関西万博協賛のご案内

azbilグループ理念

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

1906年
創業者精神
人間の苦役
からの解放



1936年
日本初の
自動調節弁
国産化に成功

1950～1970年代
First in Control
オートメーションによる
高度経済成長への貢献



1975年
世界で初めて
矩形波励磁方式を採用した
電磁流量計を
販売開始

1970～2000年代
Savemation®
高機能・高精度化、
省エネルギーへの貢献



1982年
ビル総合管理
システム
SAVIC™
を独自開発

2006年～
人を中心とした
オートメーション
持続可能な社会へ
「直列」に
繋がる貢献



2016年
オンライン異常
予兆検知シ
ステムBiG
EYES™（ビッグ
アイ）を販
売開始



2020年
Dx Valve
Cloud
Serviceを販
売開始

持続可能な
社会

2030年



2025年
AI品質ナビ
ゲーションシ
ステム「Deep
Anchor™」販
売開始

azbilグループは「計測」と「制御」の技術による自動制御・オートメーションを通じ、
一世紀余りにわたって産業・社会のサステナビリティに貢献しています

オートメーションを通じて実現したい未来をご紹介します

アズビル株式会社は大阪・関西万博のテーマウィークブロンズパートナーです。会場では、下記のイベントにおいて発表を行いますので、ご来場の際は是非とも足をお運びください。オンラインでも配信予定ですので、ご覧ください。



テーマウィークスタジオでの発表（※会場でのご参加は予約が必要です）

- 2025年5月16日（金）14:30～16:00（開場14:00）
トークセッション「オートメーションでつくる未来のちょうどいい暮らし」
- 2025年9月18日（木）14:30～16:00（開場14:00）
トークセッション「地球の未来とわくわくオートメーション技術」



TEAM EXPOパビリオンでの発表と展示（※展示は終日行います）

アズビル株式会社は、多様な参加者が集まり創り上げていく「共創チャレンジ」というイベントにおいて、3つの提案発表と展示を行います。



フリーワードに「アズビル」と入力ください

- 2025年6月11日（水）発表15:30～16:00「循環型な持続可能社会に直列につながる新6次産業チャレンジ」
- 2025年7月1日（火）発表 13:00～13:30「社内で緩やかにツナガル大作戦」
- 2025年7月28日（月）発表15:30～16:00「AI共創で描く、自分らしい成長と未来の働き方」



公式キャラクター
ミヤクミヤク

その他参考情報



6-1. IRに関するお問合せについて

- IRに関するお問合せ先：アズビル株式会社 コミュニケーション部 IRグループ
お電話でのお問合せ：03-6810-1031
ウェブサイトからのお問合せ：

https://form.azbil.com/form/pub/contact/ir_form

- ウェブサイトのご案内
開示資料のほかにも、社長インタビューや
納入事例、統合報告書、財務データ等、
様々な情報を発信していますので、
ぜひご覧ください。

<https://www.azbil.com/jp/ir/index.html>



本日の質疑応答の要旨は、
後日当社ウェブサイトの「[株主・投資家
情報](#)」内に掲載します。

- IRメール配信のご案内
決算発表等の最新のIR情報をメールでお届けします。



6-2. 株式情報（1）

株式の状況（2024年9月30日現在）

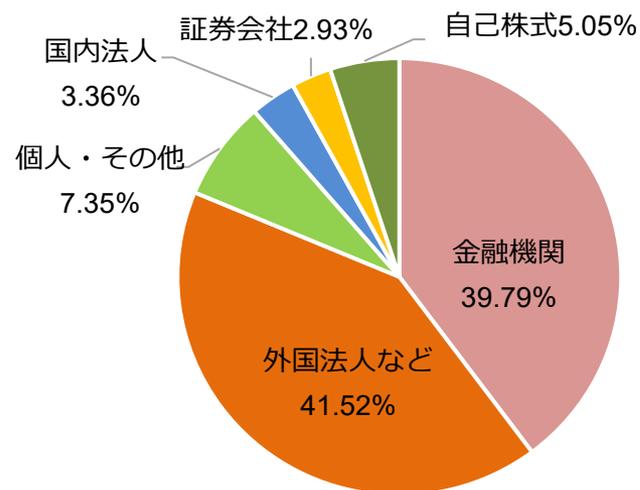
発行可能株式総数 559,420,000株
発行済株式総数 141,508,184株
株主総数 8,157名

大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 （信託口）	20,308千株	15.11%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	10,771千株	8.01%
明治安田生命保険相互会社	10,428千株	7.76%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	9,566千株	7.11%
ノーザン トラスト カンパニー エイブ イエフシー リ フィデリティ ファンズ	4,760千株	3.54%

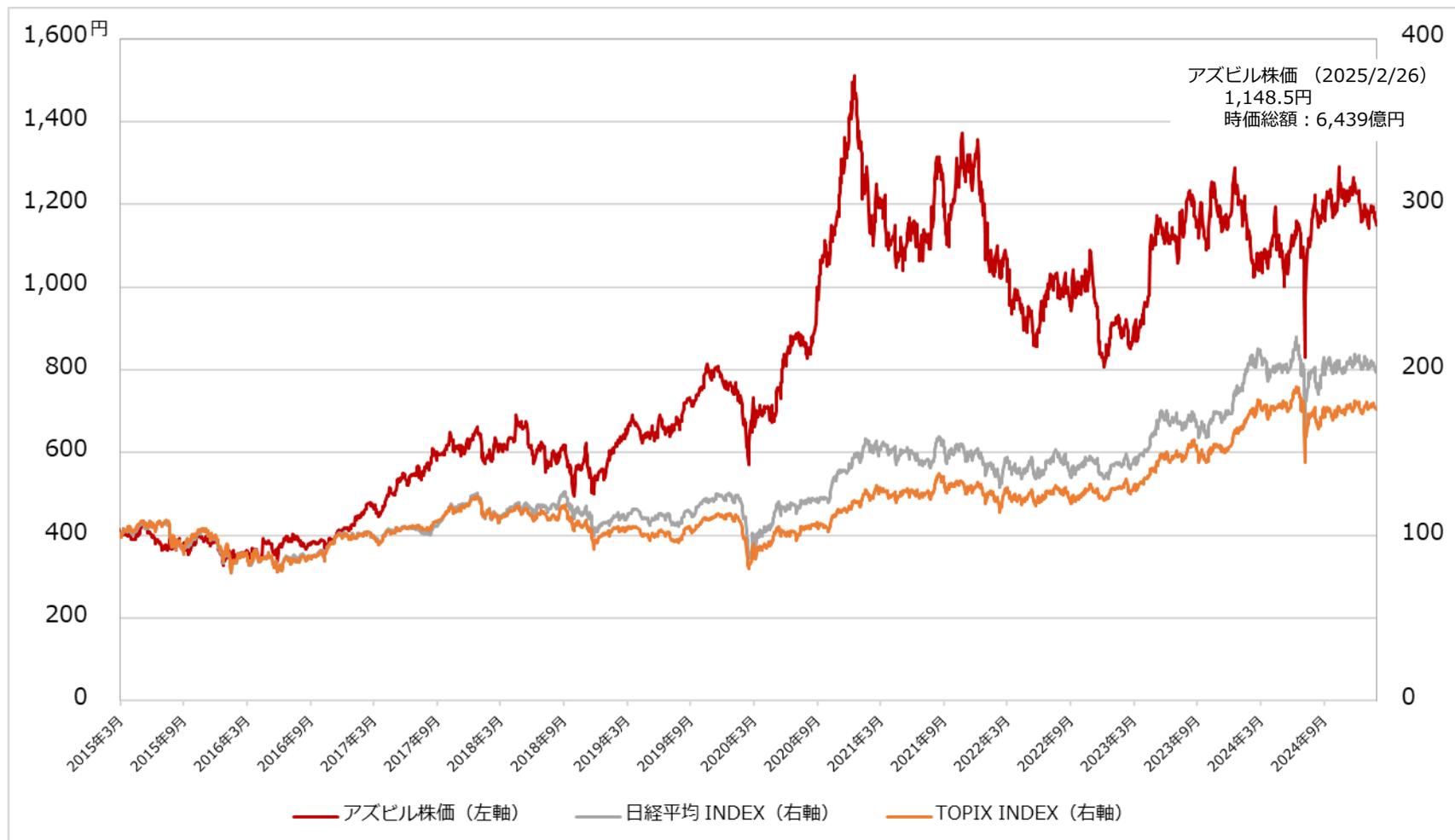
※持株比率は自己株式を控除して計算しています。

所有者別情報



6-2. 株式情報（2）

10年間 株価推移（2015年3月末～2025年2月26日まで）



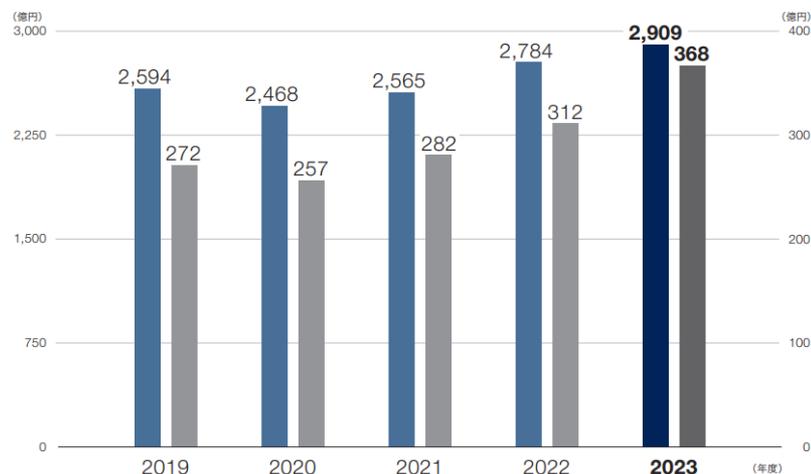
※ アズビル株価
2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。
株価は、2014年3月末に当該株式分割が行われたと仮定して表示しています。

※ 日経平均株価 INDEX、TOPIX INDEX：2014年3月末を基準（100）とした値です。

6-3. 財務・非財務ハイライト 売上高/営業利益推移 等

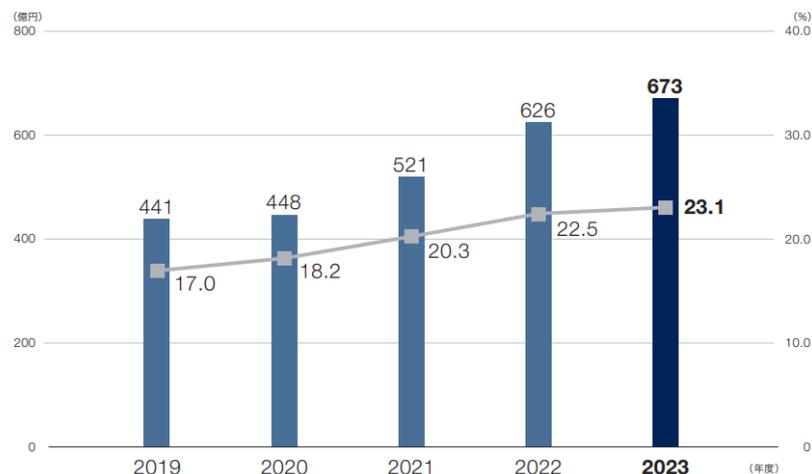
売上高/営業利益

■ 売上高(左軸) ■ 営業利益(右軸)



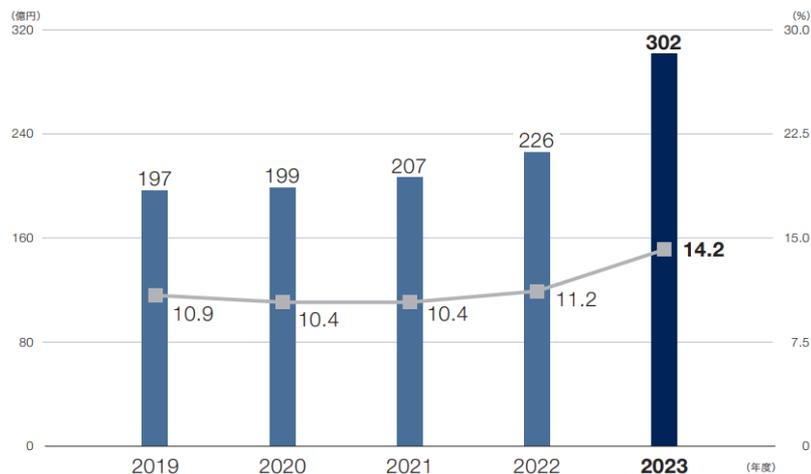
海外売上高/海外売上高比率

■ 海外売上高(左軸) ■ 海外売上高比率(右軸)



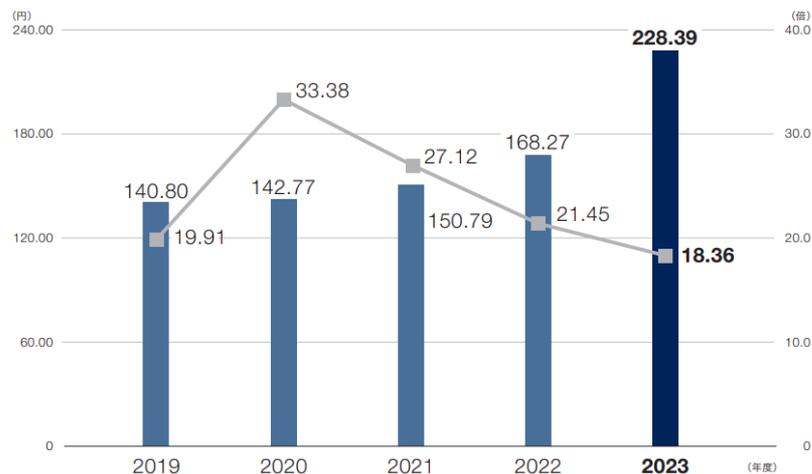
親会社株主に帰属する当期純利益/ 自己資本当期純利益率(ROE)

■ 親会社株主に帰属する当期純利益(左軸) ■ 自己資本当期純利益率(ROE)(右軸)



1株当たり当期純利益(EPS)/ 株価収益率(PER)

■ 1株当たり当期純利益(EPS)(左軸) ■ 株価収益率(PER)(右軸)



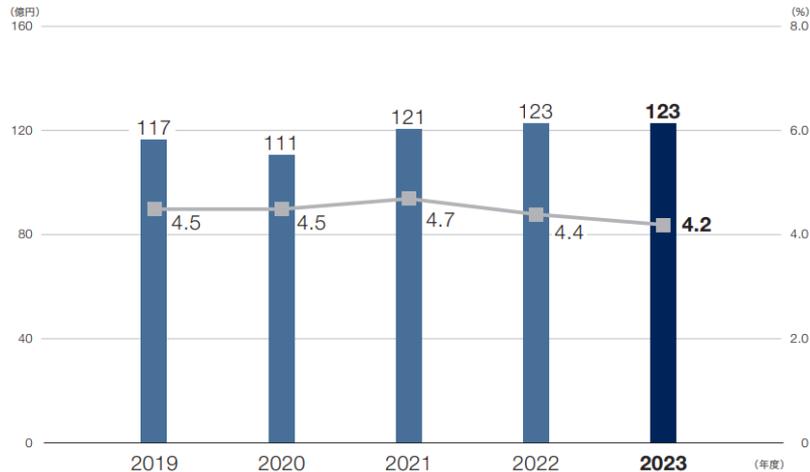
※ 2024年10月1日付で実施した株式分割の影響は加味していません。

6-3. 財務・非財務ハイライト

研究開発費/売上高開発比率推移 等

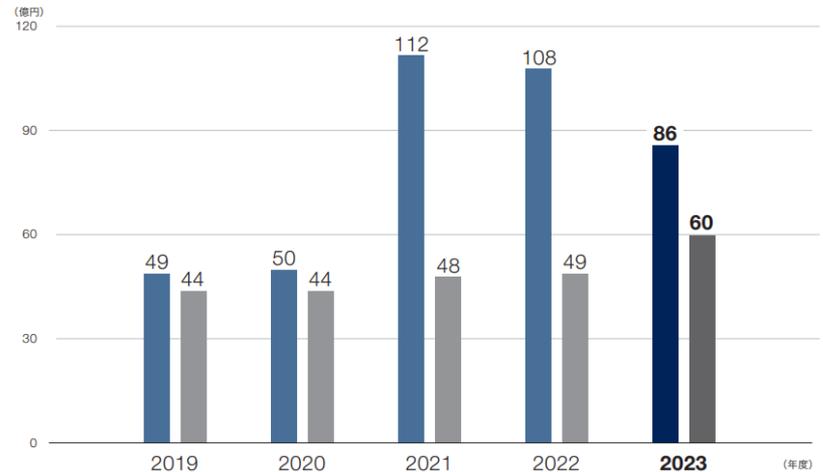
研究開発費/売上高研究開発費率

■ 研究開発費(左軸) ■ 売上高研究開発費率(右軸)



設備投資額/減価償却費

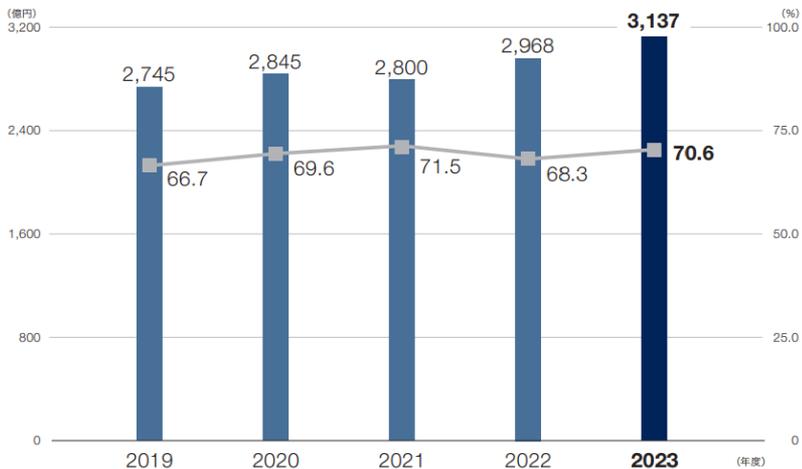
■ 設備投資額 ■ 減価償却費



※ 2021・2022年度は、藤沢テクノセンター機能強化に関わる設備投資が増加しています。

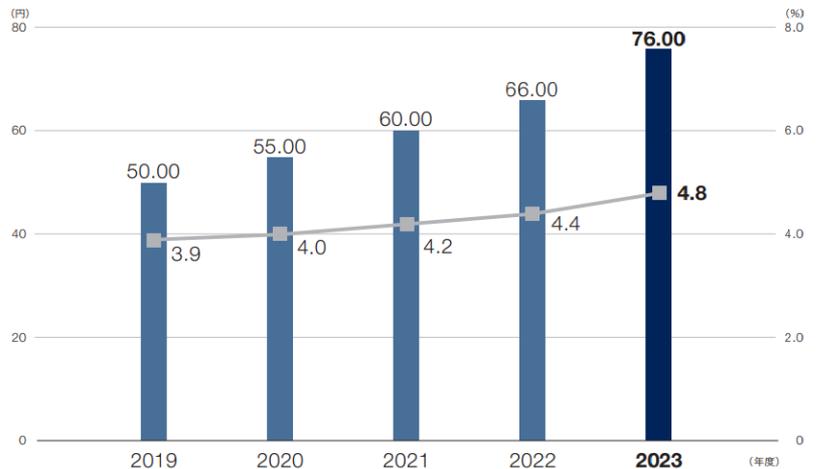
総資産/自己資本比率

■ 総資産(左軸) ■ 自己資本比率(右軸)



1株当たり配当金/純資産配当率(DOE)

■ 1株当たり配当金(左軸) ■ 純資産配当率(DOE)(右軸)



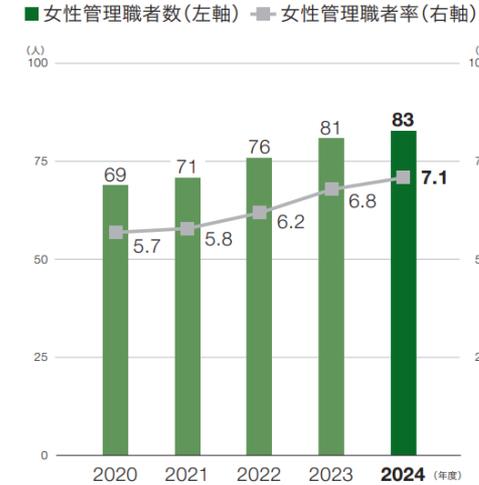
※ 2024年10月1日付で実施した株式分割の影響は加味していません。

6-3. 財務・非財務ハイライト 従業員数推移 等

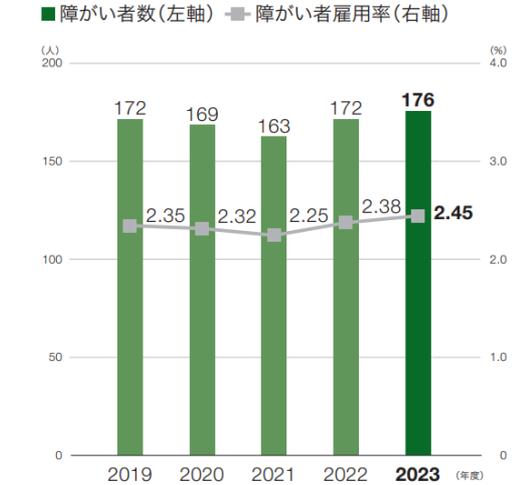
連結従業員数



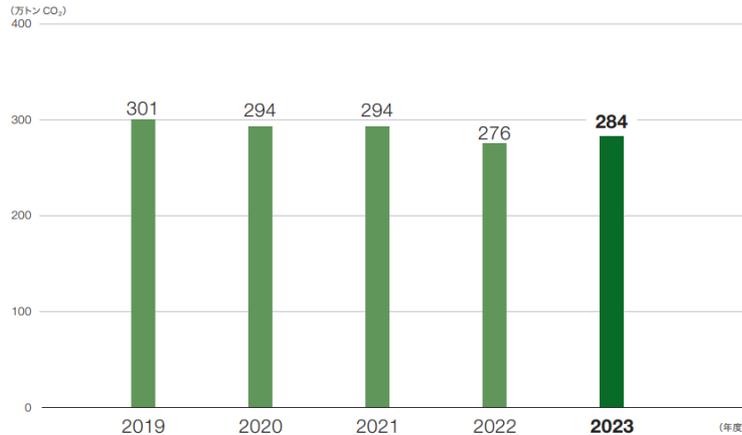
女性管理職者数／女性管理職者率
(アズビル株式会社 4月1日現在)



障がい者数／障がい者雇用率

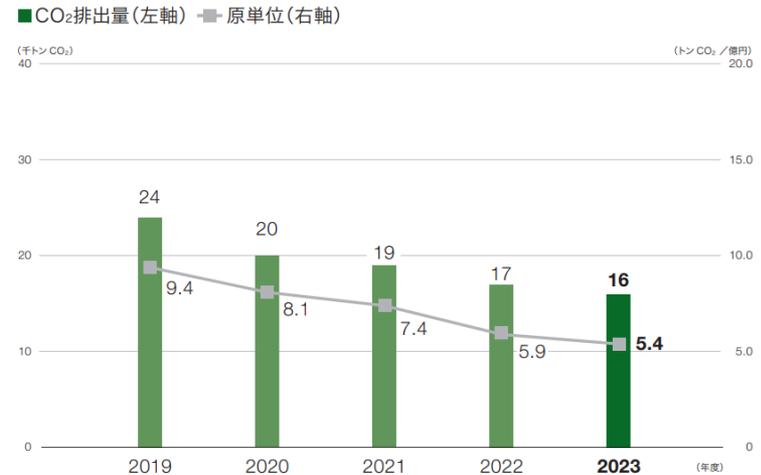


お客様の現場におけるCO₂削減効果
アズビル株式会社および海外現地法人



CO₂排出量(スコープ1+2)／原単位

アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点



注記事項

- 1) 金額は表示単位未満切捨てで記載しています。
- 2) セグメント名称及び、各セグメントを構成するサブセグメントの名称・内容は次のとおりです。

BA：ビルディングオートメーション

AA：アドバンスオートメーション

- ・ CP事業（コントロールプロダクト事業）：
コントローラやセンサ等のファクトリーオートメーション（FA）向けプロダクト事業
- ・ IAP事業（インダストリアルオートメーションプロダクト事業）：
差圧・圧力発信器やコントロールバルブ等のプロセスオートメーション（PA）向けプロダクト事業
- ・ SS事業（ソリューション&サービス事業）：
制御システム、エンジニアリングサービス、メンテナンスサービス、省エネソリューションサービス等を提供する事業

LA：ライフオートメーション

- ・ ライフライン分野：
ガスメーター、水道メーター、警報装置や自動遮断弁といった安全保安機器、レギュレータ等の産業向け製品の販売
- ・ 生活関連（ライフ）分野：
戸建住宅向けに全館空調システムを提供

- 3) azbilグループの売上高は、例年、第1四半期連結会計期間には低く、第4四半期連結会計期間に最も高くなる傾向がある一方で、固定費は恒常的に発生します。そのため、相対的に第1四半期連結会計期間の利益は低く、第4四半期連結会計期間の利益は高くなる傾向があります。

<免責事項>

本資料で記述している将来の業績予想は、現時点で入手可能な情報にもとづき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績が記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。